

学校規模適正化等検討に当たっての基本的な考え方・進め方について (案)

1 学校規模適正化等を検討する上での視点

●教育的視点

児童生徒の学校教育にとって望ましい環境としての小中学校のあり方を量的・質的の両面で協議し、望ましい学校の規模等を検討する。

○まちづくりの視点

地域の中の学校への思いや存在意義等については、適正化方針の決定後に各地域への説明の機会を設け、地域と協議する。

○財政的な視点

財政面（コスト）については、もちろん重要だが、今回の検討に当たっては、副次的な扱いとする。

2 「望ましい」学校規模・学校配置の考え方

①「望ましい」学校規模（メリット・デメリットの整理）

- ・「望ましい」学級数
- ・「望ましい」1学級当たりの児童生徒数

②「望ましい」学校配置

- ・児童生徒の負担にならない「望ましい」通学距離

3 今後の進め方

他市の取組等も参考にしながら、人口推計や「生駒市における小中一貫教育の方向性」における推進形態なども踏まえて、検討の優先順位を定めた後に検討を進めていく。